

# ソフトバンク株式会社

## システム基盤本部の IT 運用管理に ELASTIC STACK を採用



お客様概要  
ソフトバンク株式会社  
SoftBank Corp.

会社概要  
(2016年3月31日現在)

代表者:  
代表取締役会長 孫 正義  
代表取締役社長 兼 CEO 宮内 謙

本社所在地:  
〒105-7317  
東京都港区東新橋1-9-1

資本金:  
1,772億51百万円

従業員数:  
約17,700人



区分  
Telecommunication



製品・サービス  
Elastic Stack  
X-Pack  
Platinum



使用事例  
ログ分析



ソフトバンク本社ビル

国内で通信サービスなどを展開するソフトバンク。ソフトバンクのシステム基盤本部は、めまぐるしく変わるビジネスニーズに対応するために、自社開発および運用を推進。オープンソースのテクノロジーも積極的に活用する風土の中、サーバー群の稼働状況を横断的に分析および監視するために、Elastic Stack を採用しました。

ソフトバンクのシステム基盤本部は、ソフトバンクのサービスを支えるサーバーやストレージ、ネットワークの開発・運用・監視を担い、利用部門に提供しています。ビジネスの変化に迅速に対応するために、オープンソースのテクノロジーも積極的に活用しています。はじめは少数のメンバーがログ分析のためにはじめた Elastic Stack の利用ですが、次第にオフィスのあちこちで Kibana の Dashboard が目につくようになり、有効性が実証、認知されるようになりました。

### 課題： サーバー群のリソース使用状況可視化への挑戦

歴史的に各システムは独自開発を繰り返してきたことから仕様の統一がされておらず、システムの稼働環境を把握するのが困難な状況でした。システムの分析と監視そのものに対する方針の見直しも進んだことから、本格的に Elastic Stack を利用したログ分析と IT リソース監視プロジェクトに着手しました。ソフトバンクのシステム基盤本部 システム基盤統括部で統括部長を務める加藤靖之氏は、「これまで、このような非機能の取り組みは、後回しにされがちでしたが、システムの SLA を担保し、早期に問題解決を行うため、本格的に見直す必要がありました。」と解説しています。



これまでの管理ツールに加え、Elastic Stack を使用することでサーバー群のリソースの使用状況を、リアルタイムにひとつのダッシュボードで俯瞰できるようになり、ダイナミックに IT リソースを割り当てることができるようになりました。



システム基盤本部  
システム基盤統括部  
統括部長 加藤 靖之 氏

オープンソースのテクノロジーをフル活用するには、ベンダーと二人三脚でプロジェクトを進めることが必須であると考えました。Elastic のコンサルティングチームのサポートのもと検証を行い、Elastic Stack を利用したログ分析プラットフォームを設計しました。Elastic との関係は、ソフトウェアの使用とオンサイトでのコンサルティング、サブスクリプションを通じてのテクニカルサポートの利用にとどまらず、利用部門とのベストプラクティスのシェア、X-Pack 活用のための勉強会を定期的を実施しています。利用部門からのフィードバックはすべてシステム基盤本部に蓄積され、安定稼働に寄与するだけでなく、他部門への導入促進にも貢献しています。

## ソリューションと効果： 統一されたログ分析プラットフォーム ひとつのダッシュボードで俯瞰して監視が可能に

実際に、Elastic Stack は、どのように利用されているのでしょうか。システム基盤本部では、OS やミドルウェアから出力されるログやメトリックを可視化しています。また、OpenStack の仮想マシンの稼働状況も監視しています。

現在稼働しているサーバー数は数千に昇っています。「数万台規模のサーバーを安定稼働するためには、運用監視の仕掛けを、自社で開発および運用できる仕組みが必要です。」と加藤氏は、説明しています。また、Elastic Stack の導入効果について「数台程度のサーバーであれば、個別に状況を把握できますが、数万台となると、そういうわけにはいきません。これまでの管理ツールに加え、Elastic Stack を使用することでサーバー群のリソースの使用状況を、リアルタイムにひとつのダッシュボードで俯瞰できるようになりました。」さらに、「IT システム全体の稼働環境を把握することで、よりダイナミックに IT リソースを割り当てることができるようになりました。」と強調しています。

## 今後の展望： オープンソーステクノロジーに対する積極的貢献

さらに効率的な IT システムの運用を実現する観点では、どのような展望を持っているのでしょうか。加藤氏は、「システム基盤本部では今後、Elastic Stack を活用し、事後の障害の解析はもちろんのこと、障害の予兆を察知し、事前に予防できるようにしたい考えです。またサーバーの柔軟な拡張・縮退運用やシステム全体のキャパシティプランニングに役立てたいです。」と豊富を述べています。

システム基盤本部では、数多くのオープンソーステクノロジーを採用しています。今後はどのような方針なのでしょうか。加藤氏は、次のように語っています。「オープンソースについては、常に最新の動向を視野に入れながら導入検討するのが基本スタンスです。特定のエリアのスペシャリストであるオープンソースベンダーと密な関係を続けることは、ビジネスのスピードアップだけでなく、エンジニアのスキル向上にも大きな影響があります。」

システム基盤の開発現場でオープンソースの導入に取り組み、システム基盤統括のシステム基盤開発課で課長代行を務める松浦 晋氏は、「将来は、単純なソフトウェアのユーザーにとどまらず、オープンソーステクノロジーに対して積極的なコントリビューションができるような文化をソフトバンクグループ全体に広げたい。」と述べています。



将来は、単純なソフトウェアのユーザーにとどまらず、オープンソーステクノロジーに対して積極的なコントリビューションができるような文化をソフトバンクグループ全体に広げたい。



システム基盤本部システム基盤統括部  
システム基盤部システム基盤開発課  
課長代行 松浦 晋氏